

(甲殻類): 時期別には、各水深層とも個体数、現存量は春季と秋季がピークになっている。水深別には個体数では春と秋に 20 m 層に最も多く出現し、夏季と冬季は漸減傾向にある。現存量は秋季を除けば春季最も多く出現し、その後漸減傾向にある。この種類中、ヒラツメガニが最も現存量が多く優越種とみられるが他の有用種では 4 種クルマエビ類(キシエビ、サルエビ、クルマエビ)がみられる。

ヒラツメガニは春季密度が高く 50 m 以浅に出現し浅所ほど分布密度が高い。

クルマエビ類は調査海域で採取されたクルマエビ類は 6 種あり、その中量的に多いものはキシエビで春～秋期 50 m 以浅にみられる。

サルエビは 50 m 以浅に分布し 20～50 m 層に多い。

クルマエビは春季 20～50 m、秋季 20 m 以浅にみられ密度が高くなっている。

(棘皮類): 時期別には、個体数、現存量とも夏～秋季にかけて最も多く出現している。水深別には個体数、現存量とも春季は水深を増すにつれ漸減傾向であり、夏季～秋季では 20 m 層に多くみられた。他の魚種に比べ採取された個体数、量とも少ないが、この中で量的にみられるものはスナヒトデ類の 20 m 層を中心とした 50 m 以浅とモンジガイ類の 5 m 層に出現したものである。

春期(4～5月)小型底びき網漁獲物の 魚種別体長組成について

小田切 忠 夫

昭和 46 年 4～5 月に鳥取県賀露港沖合の底魚資源調査の一環として、賀露漁業協同組合所属の小型底びき網漁船 7 隻を標本船として調査を実施した。ときに、水産庁を中心とした日本海栽培漁業の漁場資源生態調査が事業として実施され、鳥取県においてはヒラメ、カレイ類班として共同調査にわり、併せてこの調査をも実施した。この調査からは沿岸資源の動向が得られれば幸いであるが、その整理には時間を要するのでとりあえず今回は、魚種別体長組成について整理出来たので報告する。

調 査 方 法

昭和 46 年 4～5 月中、1 ヶ月の中 7 日間操業区域水深 80 メートル以深が主体、海域図 1 により表 1 の調査船の中で、賀露漁協所属小底船 7 隻により調査され、出漁日について 1 隻の標本船をえらび、1 網の漁獲物を水試に提供してもらい、水試において魚種別、多項目調査を実施した。

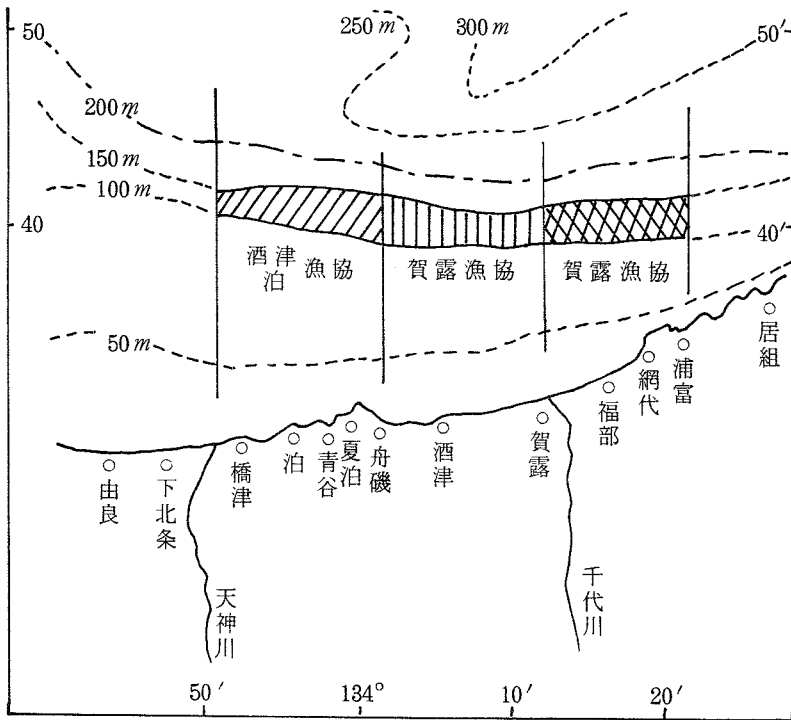


図1 漁協別調査海域

表1 操業漁船

所属組合名	船名	氏名	所属組合名	船名	氏名
賀露漁協	日光丸	林昌明	賀露漁協	福丸	深沢光志
"	宮福丸	宮根憲久	"	はまたか丸	浜橋寿男
"	松栄丸	豆田昭郎	"	福洋丸	宮根保雄
"	共栄丸	加藤良一			

結果および考察

出漁日、出漁船数、資料提供船については表2のとおりで、出漁日については14日の中天候が悪く、11日しか出漁出来なかった。出漁船数については、4月20日1隻を除き、全船出漁している。資料提供については5月13日、14日を除き、毎日資料の提供をうけた。

表2 出漁日、出漁船数、資料提供船名

回数	出漁日	出漁船名	資料提供船名	回数	出漁日	出漁船名	資料提供船名
1	4/16	7	宮福丸	6	5/11	7	日光丸、福洋丸
2	18	7	松栄丸、福丸	7	12	7	共栄丸
3	19	7	はまたか丸、福洋丸	8	13	7	
4	4/20 21	6 7	共栄丸、日光丸 松栄丸、宮福丸	9	14	7	
5	5/9	7	はまたか丸、福丸	10	16	7	はまたか丸

魚種別、日別、出現数は表3のとおりである。

表3 魚種別、月別、出現数

魚種名 \ 月日	4/16	18	19	20	21	5/9	11	12	13	14	16	日別合計
アイナメ					1		2				1	4
アンコウ		12	17	6	6							41
アブラガレイ		2	6	3	5							16
アブオコゼ			1									1
イテモドキ	14	42	38	7	6							107
イトベラ	1											1
イタヤガイ					10							10
インダイ		7	18									25
ウマズラハギ	10	7	111	42	19	59	61	30			31	370
ネズミゴチ		1	1			4		1	6		14	27
エイ	11	15	47	1		10	1			1	2	88
オニオコゼ				1		1						2
カサゴ		3	13	3	11							30
カナガシラ	6		5	31	14	3	7	1			12	79
ガンゾウビラメ	5	1	6	33	1	5	6				9	66
ナメラフグ						1	2	1				4
ガンギエイ			6	4	7		22	15				54
キダイ					4							4
ギンポ			1		3	2					3	9
ギンアナゴ	16		13	38	14	6	12	2				101

魚種名	月日	4/16	18	19	20	21	5/9	11	12	13	14	16	日別合計
ヒラメ		22		36	4		18	26	42				148
チダイ						1							1
ニギス			1	1									2
ハオコゼ						1							1
ヒメジ				12		1							14
ホシザメ							1		1				2
サメ					2								2
セトウシノシタ							3	5	1			4	13
マトウダイ		1	6	1	7	5	1					1	22
マコガレイ									2				2
マエソ				3				2					5
マダイ		5	2	24	5	12	17	11			5	1	82
マガレイ			6	7					1				14
ミシマオコゼ		3		6	2			4	2				17
ムシガレイ		60	59	54	20	40	1	21	6			2	263
メゴチ		6		2	7	1			1			1	18
ヤナギムシガレイ		9	40	57	27								133
メイタガレイ		43	6	29	48	21	29	35	22			31	264
クラカケトラギス							1	1					2
ササノハガレイ		7											7
ササウシノシタ		6			2	3	43	32	2			30	118
スルメイカ				9					2				11
コウイカ				3									3
ハリイカ				2									2
ヒメコウイカ			6	5	20	9		1				16	57
ウチワエビ			1			1							2

以上から、漁獲種類は46種であるが、その中で数量的に多いのは、イテモドキ、ウマズラハギ、ギンアナゴ、ヒラメ、ササウシノシタ、ムシガレイ、ヤナギムシガレイ、メイタガレイである。

つぎに、この各魚種について述べる。(表3、図2参照)

イテモドキ

総漁獲尾数は107尾で、すべてが4月中に漁獲されている。その中で4月18日42尾、4月19日38尾が最も多く漁獲されており、体長組成からみると4月18日は、体長の範囲が8.5~135cmでモー

ドは10.0~10.5cmにある。又4月19日は、体長範囲が9.0~13.0cmでモードは10.0~11.0cmである。4~5月の全漁獲からの体長の範囲は、8.5~15.5cmでモードは10.0~11.0cmであった。

ウマズラハギ

総漁獲尾数は370尾で、全漁獲種類中最高の漁獲を示している。4~5月の全漁期を通じて平均して漁獲され、4月20日、4月21日、5月10日、5月12日は、特に多い。全期を通じての体長組成の範囲は9.5~24.5cmでモードは10.5~15.5cmであった。4月20日は体長範囲は10.0~23.0cmでモードは10.5~14.5cmである。4月21日は体長範囲は9.5~21.0cm、モードは11.0~13.0cmである。5月10日は体長範囲は11.0~24.5cm、モードは14.5~16.5cmである。5月12日は体長範囲は11.0~17.5cmでモードは11.5~13.0cmであった。

ギンアナゴ

総漁獲尾数101尾で、4月から5月の上旬に漁獲されている。

体長の範囲は30.0~43.0cmでとくにモードは形成されていない。

ヒラメ

総漁獲尾数148尾で、漁期中平均して漁獲されている。特に4月20日、5月13日が多獲されている。全漁期を通じての体長範囲は15.0~43.0cmで特にきわだったモードはないが、17.0~21.0cm、33.0~38.0cmがモードと思われる。4月20日についてみると、体長範囲は15.0~34.5cmでモードは17.0~21.0cmである。5月13日は体長範囲が21.5~43.0cmでモードは35.0~39.0cmであった。

ササウシノシタ

総漁獲尾数118尾で、5月上旬が中心に漁獲されている。全漁期中の体長範囲は8.0~12.5cmでモードは9.0~11.5cmである。特に多獲日は4月22日、5月9日、5月13日で、4月22日は体長範囲8.0~12.5cmで、モードは比較的広く9.0~11.5cmである。5月9日は体長範囲8.0~12.5cm、モードは9.5~11.5cmである。5月13日は体長範囲8.0~12.0cm、モードは10.0~10.5cmであった。

ムシガレイ

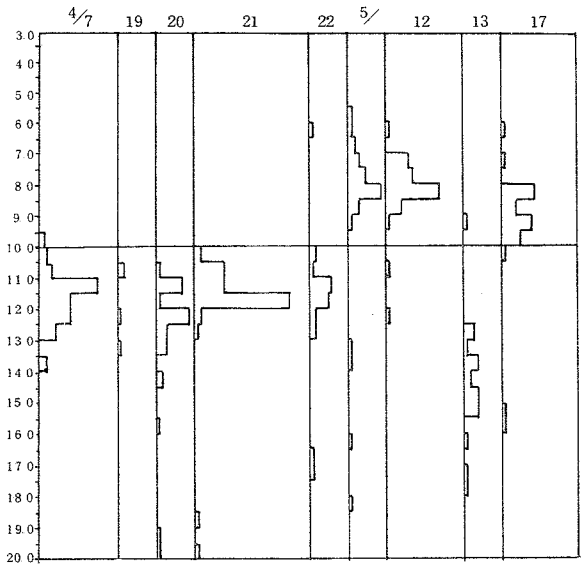
総漁獲尾数263尾で、漁獲日は4~5月上旬で、特に4月上旬が多い。全漁期中の体長範囲は、7.5~25.5cmでモードは13.0~15.5cmにある。多獲日は、4月17日、4月19日、4月20日、4月21日で、4月17日は体長範囲8.5~18.0cm、モードは10.0~10.5cm、13.0~15.0cmである。4月19日は体長範囲は8.5~19.5cm、モードは13.0~14.5cmである。4月20日は体長範囲8.5~25.5cmでモード13.5~15.5cmである。4月21日は体長範囲10.0~16.5cm、モードは14.0~15.5cmである。

ヤナギムシガレイ

総漁獲尾数133尾で、4月中に漁獲されている。全漁期中の体長範囲は7.0~24.0cmでモードは9.5~12.0cmである。多獲日は4月19日、4月20日で、4月19日は、体長範囲8.0~22.0cm、モードは11.0~12.0cmである。4月20日は体長範囲7.0~15.5cmでモードは10.0~12.0cmである。

メイタガレイ

☒ 2



クラカケ
トラキス

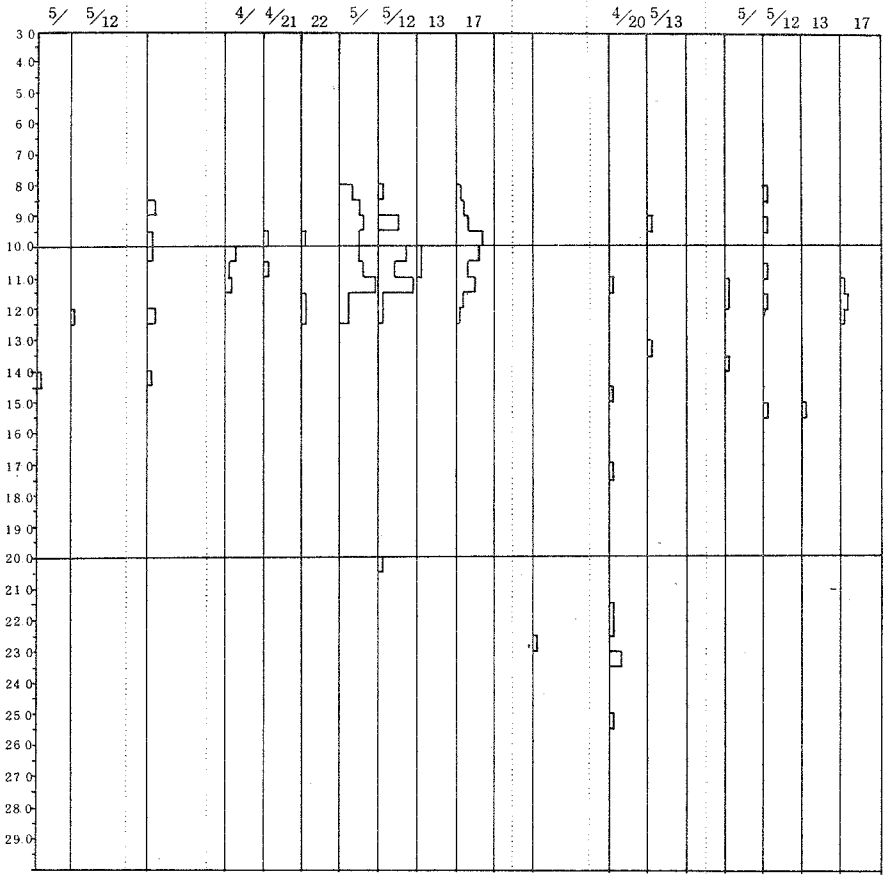
ササノハ
ガレイ

ササウシノシタ

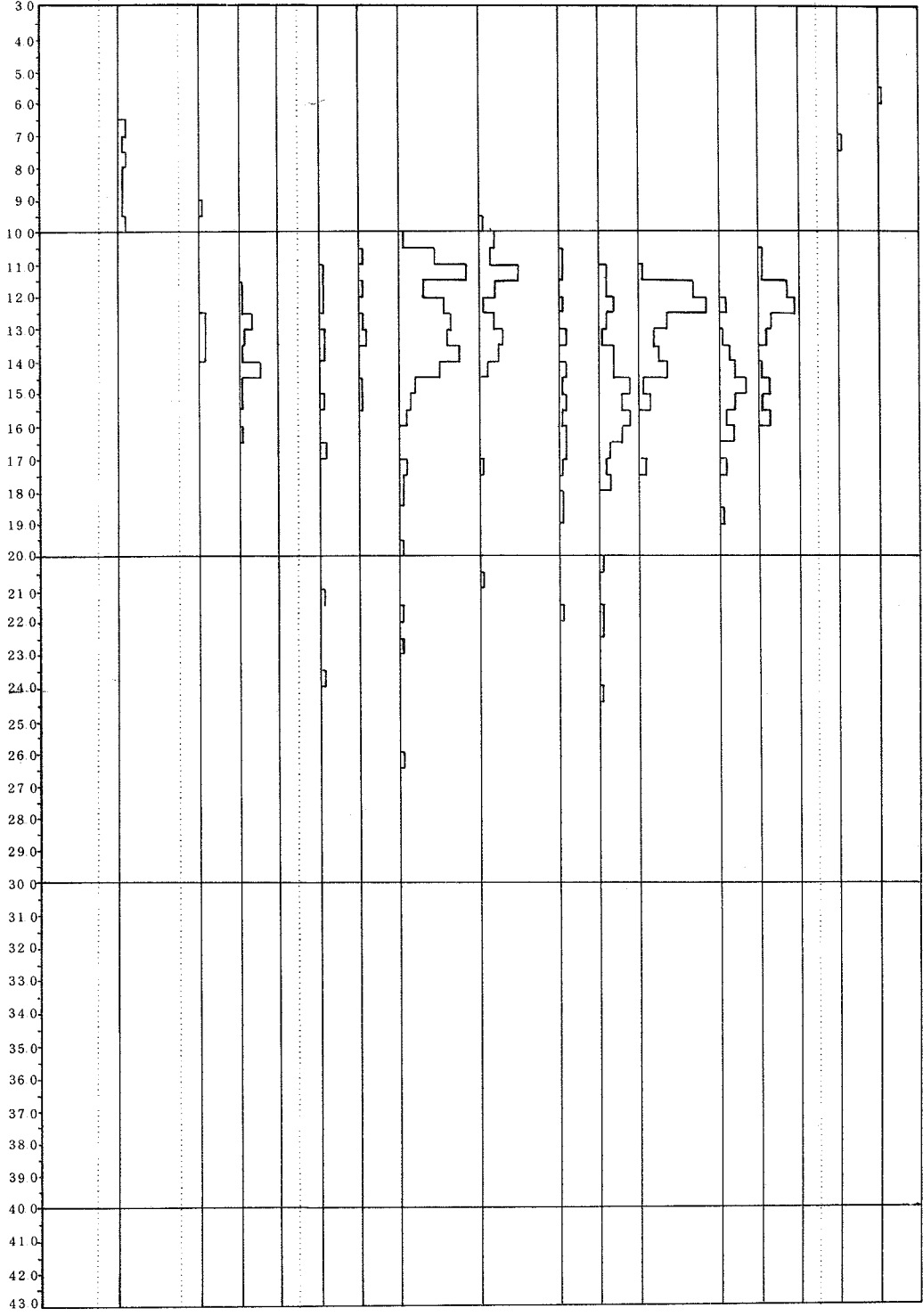
サメ

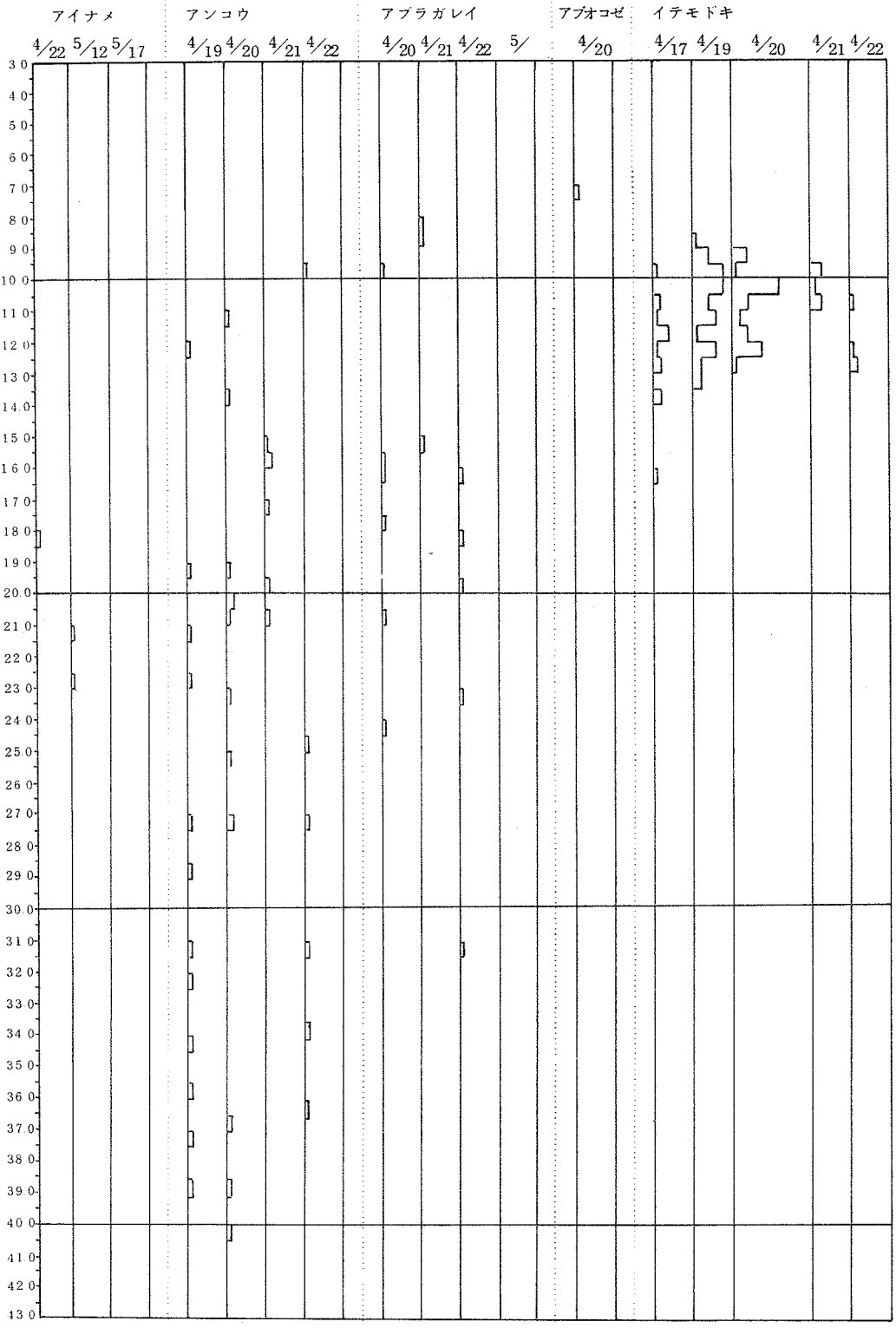
スルメイカ

セトウシノシタ



イトベラ イタヤガイ イシダイ ウマズラハギ ウチワエビ

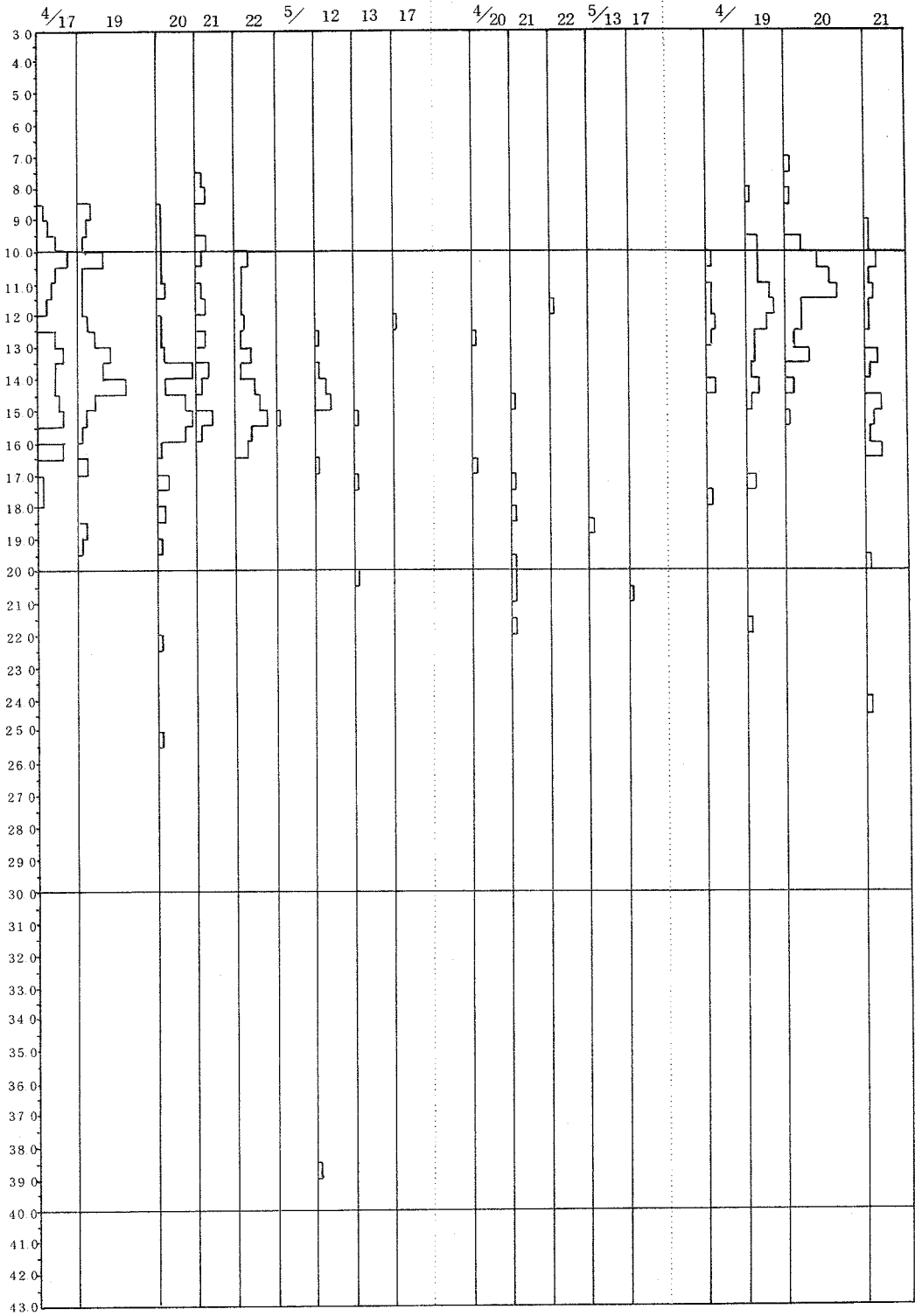


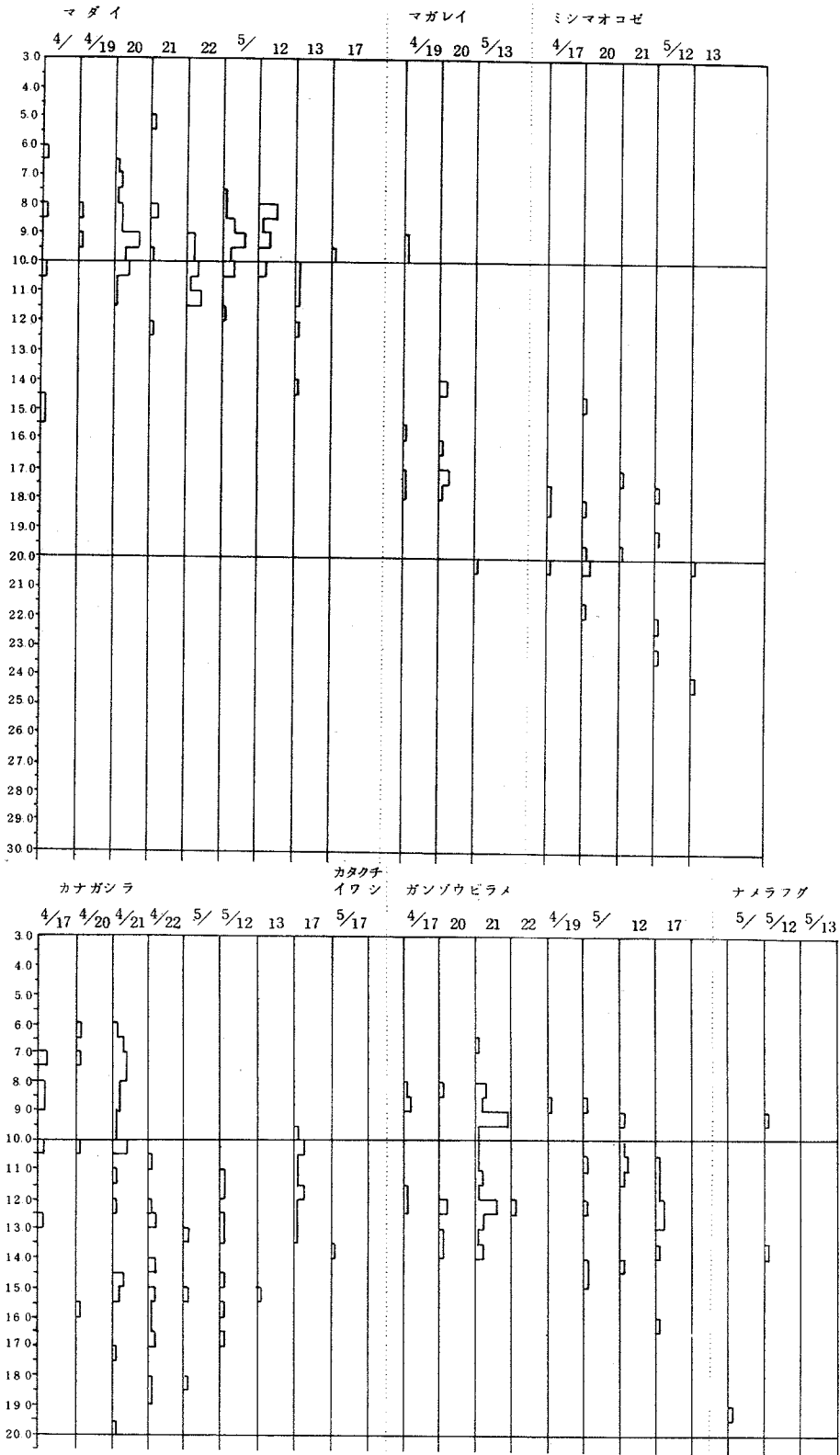


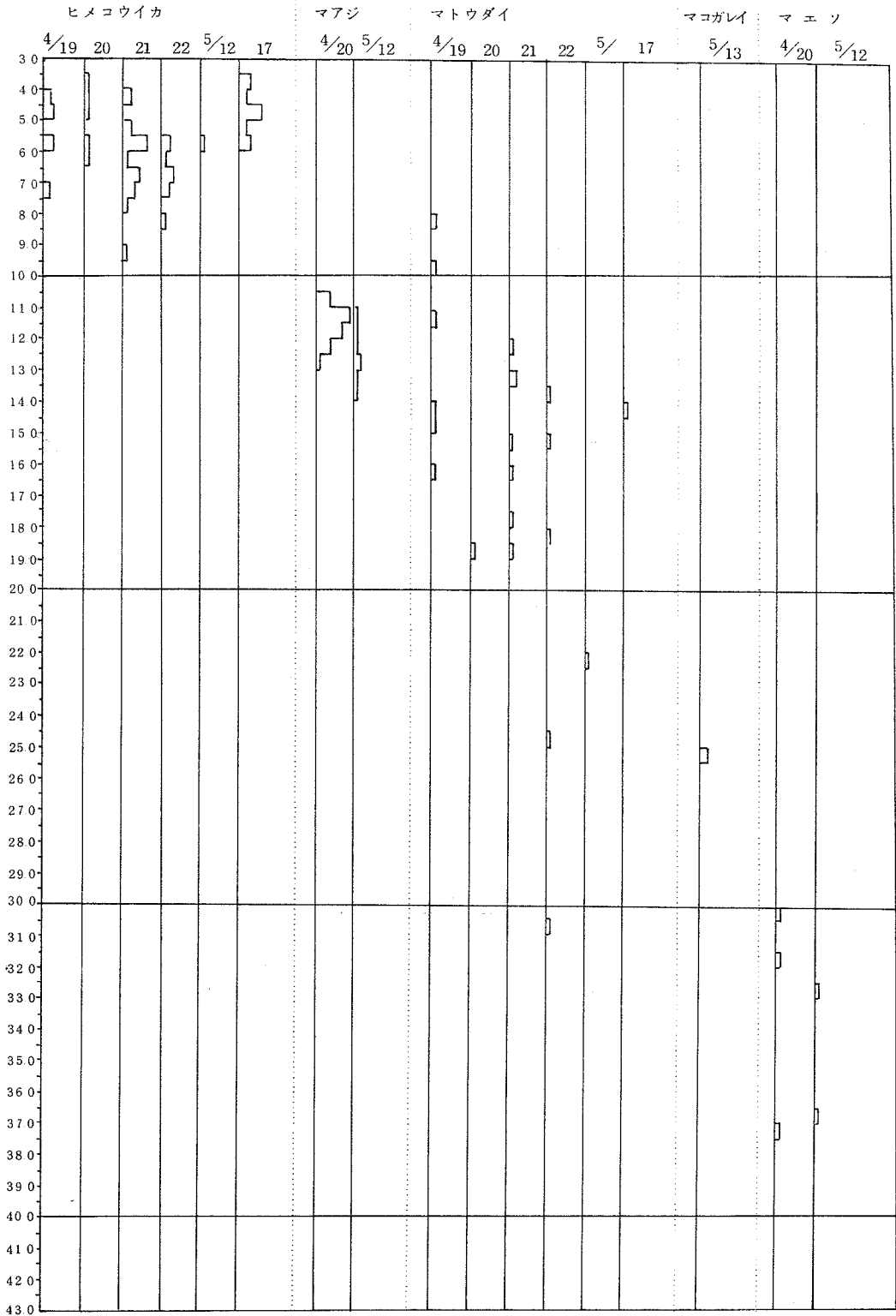
ムシガレイ

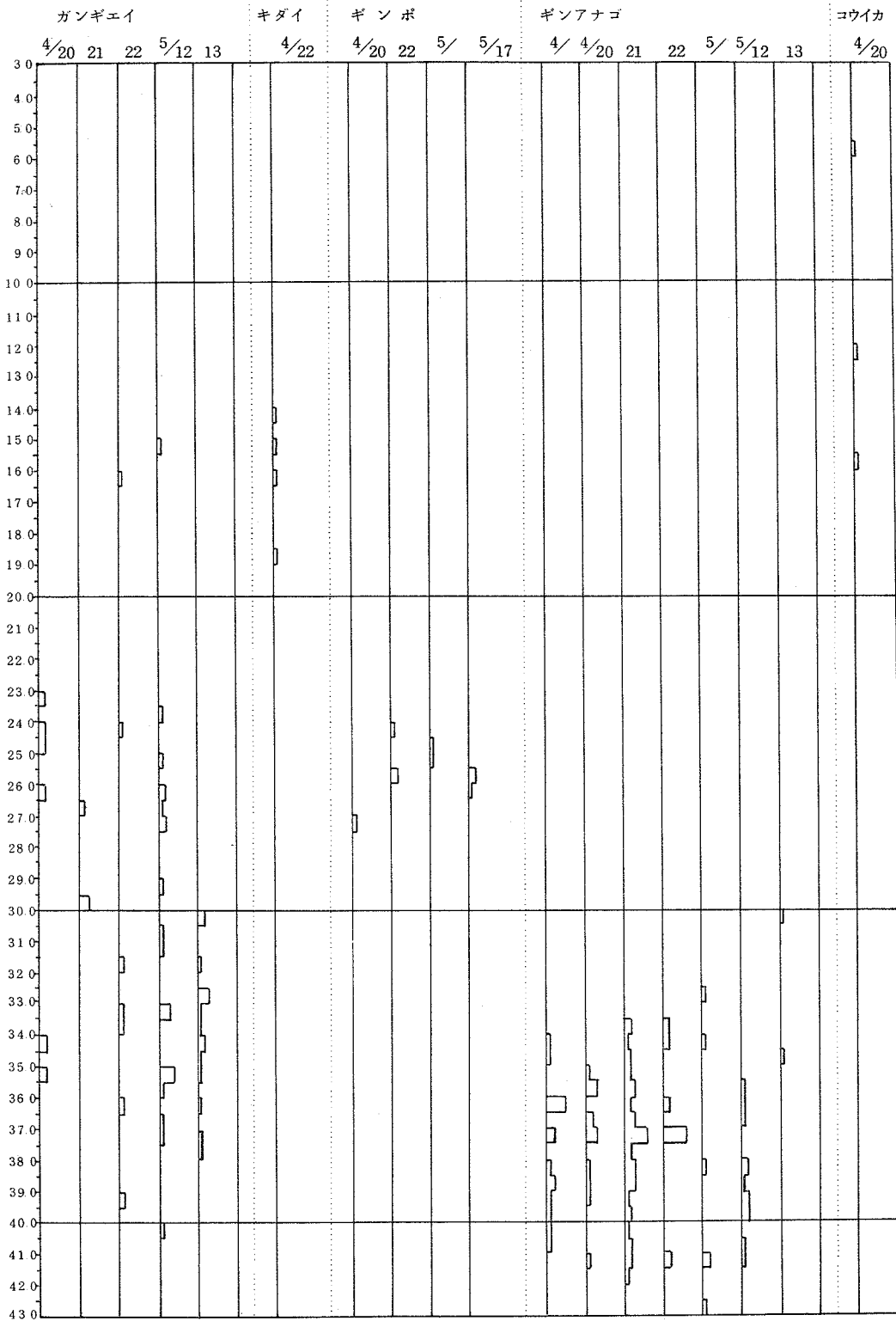
メゴチ

ヤナギムシガレイ









ネズミゴチ

エ イ

オニオコゼ

カサゴ

